

平成 15 年 4 月 28 日

各 位

会 社 名 デジタルアーツ株式会社
代 表 者 名 代表取締役社長 道具 登志夫
コード番号 2326 大阪証券取引所 ヘラクレス市場
問 合 せ 先 取締役管理本部長 後藤 茂
(TEL 03-5485-1340)

通期業績予想の修正に関するお知らせ

最近の業績の動向を踏まえ、平成 15 年 2 月 14 日の「平成 15 年 3 月期第 3 四半期の業績等の概況」発表時に公表した平成 15 年 3 月期(平成 14 年 4 月 1 日～平成 15 年 3 月 31 日)の業績予想を下記の通り修正いたしましたのでお知らせいたします。

記

1. 当期の業績予想数値の修正(平成 14 年 4 月 1 日～平成 15 年 3 月 31 日)

	売上高	経常利益	当期純利益
前回発表予想(A)	820	207	117
今回修正予想(B)	681	5	5
増減額(B-A)	138	202	123
増減率(%)	16.8	97.5	105.0
前期実績(平成 14 年 3 月期)	546	80	131

(金額の単位:百万円 百万円未満切捨)

2. 修正の理由

<セキュリティ事業>

当期は小学校及び中学校を中心としたスクールマーケットにおいて IT 関連のインフラの整備形態が、学校単体での導入から地方自治体、図書館などを含めた地域での導入へ変化したこと、あわせて地方自治体の財政難による予算減などの影響から、当初予想した需要の伸び率と大きく乖離する状況となりました。このことに伴い、スクールマーケットにおける売上が当初計画を大幅に下回る結果となりました。

一方、ビジネス市場においては、インターネットセキュリティへの意識が「外部からの攻撃」に関するものから、ネットワークを介した「情報漏洩」に変化してきた背景も後押しし、順調に売上を拡大し当初計画を大きく上回りました。しかしながら、セキュリティ事業全体ではビジネスマーケットでの売上がスクールマーケットにおける売上減を補うまでに至りませんでした。

<インフォメーション事業>

企業向けに販売を行っている情報収集サービス「NET iScope」について、契約社数、売上高共に前年より大きく増加いたしました。昨今の国内景気の低迷による企業における投資予算削減の影響を受け、当初の見込みを達成するには至りませんでした。

上記の要因により全体の売上高で 681 百万円と当初の予想 820 百万円を 138 百万円下回る結果となりました。またこのことに起因し、経常利益で当初予想 207 百万円に対し 5 百万円、当期純利益で当初予想 117 百万円に対し 5 百万円と予想を大幅に下回る結果となりました。

以上